

# 令和8年度 観光関連予算について

## 観光関連産業の持続的な発展に向けて

### 第6期「北海道観光のくにづくり行動計画」(2026年度-2030年度)

【重要目標達成指標】：観光消費額 1.5兆円 ⇒ 2.7兆円 (2030年度)

地域偏在や季節偏在といった構造的な課題の  
対応・解決と北海道観光の潜在力の発揮

旅行者、観光業従事者、地域住民  
それぞれの満足度向上と相互の理解

#### 施策体系

- ①「観光コンテンツ」
- ②「観光サービス基盤」
- ③「観光インフラ」
- ④「安全・安心と共生」
- ⑤「誘客活動と情報発信」

めざす姿  
道民に愛され世界から選ばれる  
「観光立国北海道」

観光を通じた消費額の拡大による地域経済を支える  
観光関連産業の持続的な発展

#### 計画に掲げる施策に対応する関連事業

112億円程度

※公共事業は含まない

区分	令和8年度予算額	備考
観光機構負担金事業	16億円	観光関連コア事業 47億円
その他関係事業	6億円	
宿泊税事業(充当額)	25億円	
自然・公園等施設関連事業	30億円程度	自然公園、都市公園、道民の森、青少年等施設
交通・航空関連事業	18億円程度	鉄道、バス、航空、離島航路、地方交通
食・文化・交流等関連事業	17億円程度	食関連産業、歴史・文化、福祉、海外事務所

## 負担金

北海道観光機構により実施することが効果的な事業は負担金事業として実施。

負担金計	1,601,264
------	-----------

### 1. 観光地づくり

343,372

- ・地域の魅力を活かした観光地づくり推進事業費 225,526  
受け入れ体制整備や観光地づくりの支援
- ・地域偏在解消対策事業費(広域周遊等) 97,973  
モデルルート形成と二次交通の利便性向上
- ・ユニバーサルツーリズム推進事業費 19,873  
様々なニーズの旅行者が旅行を楽しめる体制づくり

### 4. 観光プロモーション

940,650

- 〔拡〕誘客促進強化事業費 908,592  
道内・国内・欧米豪・アジア・インド・中東の各市場に応じたプロモーションなどによる誘客及び負担金
- ・北海道教育旅行誘致事業費 22,414  
誘致のための情報発信・プロモーション
- ・MICE誘致事業費 9,644  
誘致のための市町村の取組支援

### 2. AT

222,480

- ・アドベンチャートラベル推進事業費 112,176  
受け入れ体制整備・市場開拓等
- ・アジアにおけるAT商品販売促進費 27,731  
AT商品の販売促進
- ・アドベンチャートラベル推進事業費(人材) 33,318  
研修等の実施
- 〔拡〕AT受入体制整備費 49,255  
受け入れ体制整備に向けたネットワーク構築、地域の歴史・文化研修の実施(拡充)

### 5. その他

55,482

- ・どさんこ旅サロン運営・利用促進事業費 12,720  
有楽町の「どさんこ旅サロン」の運営
- ・観光機構補助金 42,762  
人件費等の補助

### 3. マーケティング

39,280

- ・広域連携DMOデジタルマーケティング事業費 34,167  
マーケティングデータ・収集分析
- ・持続可能な観光地づくり推進事業費 5,113  
満足度調査の実施

### その他道直営等

609,735

- |                       |        |                  |         |
|-----------------------|--------|------------------|---------|
| ○観光局直営事業              | 63,994 | ○他部直営事業等         | 545,741 |
| ・民泊総合窓口事業費            | 11,892 | ・総務部(赤れんが庁舎保存活用) | 35,520  |
| ・MICE誘致事業費            | 21,761 | ・総政部(地域交通・航空等)   | 182,849 |
| ・「IRに関する基本的な考え方」改定事業費 | 9,982  | ・環生部(縄文世界遺産活用等)  | 67,719  |
| ・観光局直営その他             | 20,359 | ・農政部(農村ツーリズム)    | 1,890   |
|                       |        | ・その他(税活用事業一財分等)  | 257,763 |

宿泊税収から賦課徴収や周知広報、施策検討に要する費用を控除した額を宿泊税活用事業へ充当

宿泊税活用事業費 計 2,667,097  
(うち宿泊税活用額 計) (2,521,423)

〈宿泊税収見込額〉 3,227,880 - 〈徴税・施策検討経費〉 706,457 = 〈宿泊税活用額〉 2,521,423 【単位:千円】

## 1. 観光の高付加価値化

事業費:1,644,276  
税活用額:1,638,780

### ① マーケティングの強化

- 拡**・北海道観光入込客数調査事業費 69,855  
人流データを活用した観光入込客数調査を実施 (64,359)
- 新**・観光情報基盤構築事業費(マーケティングサイト構築) 299,112  
観光に係る基礎データを収集しマーケティングサイトを構築 (299,112)

### ② 資源を活かした観光の推進

- 新**・地域偏在解消に向けた地方への送客支援事業費 24,318  
地域周遊ツアーバス補助により、地方への送客を支援 (24,318)
- 新**・北海道の文化・歴史振興事業費 21,230  
自然の中で地域文化資源や歴史を体験するナイトツアーを造成 (21,230)

### ③ 地域の取組支援

- 新**・観光地づくり加速化補助事業費【※】 945,187  
観光関連事業者等が行う省力化や安心・安全、高付加価値化等に係る設備投資等を支援 (945,187)
- 新**・地域観光振興事業費(振興局事業) 284,574  
各振興局において地域の実態・ニーズに即した施策を展開 (284,574)

## 3. 危機対応力の強化

事業費:150,000  
税活用額:150,000

### ⑦ 危機対応力の強化

- 新**・観光危機対応事業費 150,000  
災害等の道内観光への影響の最小化を図るため、適切な初動対応に向けた体制整備や情報発信などの取組を実施 (150,000)

## 2. 観光サービス・観光インフラの充実・強化

事業費:872,821  
税活用額:732,643

### ④ 人材の確保・育成

- 拡**・観光人材確保加速化事業費 150,619  
北海道観光人材の確保・育成のため魅力発信や研修等を実施 (75,310)
- 新**・稼げるガイド育成に向けたキャリア構築支援事業費 21,886  
セミナーや実地研修などを行い「稼げるガイド」キャリア構築を支援 (21,886)

### ⑤ 受入機能の強化・高度化

- 拡**・持続可能な観光地づくり推進事業費 64,507  
マナー啓発動画作成や旅マエなどでの旅行者向けマナー啓発を実施 (57,400)
- 拡**・北海道さっぽろ「食と観光」情報館運営費 69,220  
J R札幌駅に設置している観光案内所の移転経費 (31,548)
- 新**・自然公園における旅行者受入機能強化事業費 148,171  
自然公園における道有施設の利便性向上のための整備と標識やガイドマップの多言語化を実施 (128,081)

### ⑥ 移動利便性の向上

- 新**・観光情報基盤構築事業費(デジタルプラットフォーム構築) 【再掲】  
観光・交通に係る各種情報の集約などAIに対応したプラットフォームの構築
- 新**・観光客移動利便性向上補助事業費 218,418  
観光目的の定期路線バスの立ち上げを支援 (218,418)
- 新**・公共交通利便性向上促進事業費補助金 200,000  
交通事業者が行うキャッシュレスシステム等の導入を支援 (200,000)

【※】観光地づくり加速化補助事業費の取組は

【⑤受入機能の強化・高度化】の方向性含む

**新**:新たに取組む事業 **拡**:既存事業を拡充する事業

## 課題等

- 現行調査は、集計・公表するまでに半年程度の時間を要しているが、一方で、国の統計(宿泊統計、訪日外客統計等)は、概ね2ヶ月後には速報値を公表しており、課題の把握や施策への反映などに遅れが生じている。
- 地域との意見交換会等において、市町村などから、本調査に対する負荷軽減の要望をいただいている。
- 国の「共通基準」では、本調査において、「人流データ」の活用を可能としているが、少なくとも1年間は従来手法と並行し、傾向の違いの把握が必要とされている。

## 対応

- 人流データを活用した新たな観光入込客数調査を行うことで、市町村・宿泊事業者などの負担軽減を図るほか、道が、全道・市町村・観光地点などの入込客数を人流データを活用し分析を行い、市町村へデータを提供することで迅速な公表の実現を図る。
- R8年度は、並行期間とし、人流データから得られるデータと従来手法によるデータの傾向の違いを把握し必要な検討を行った上でR9年度以降の切り替えを目指す。

## 事業内容

区分	内容
<b>【委託】</b> 人流データによる調査・分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>○市町村向け説明会の開催</li> <li>○人流データの購入・分析</li> <li>・新規手法での観光入込客数調査及び従来手法との相違点分析、手法切替の検討</li> </ul>
<b>【委託】</b> 観光地点調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>○観光地点パラメータ調査</li> <li>・道内16箇所でのアンケート調査</li> </ul> <div style="border: 2px dashed red; padding: 5px; display: inline-block;">従来調査</div>

	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
北海道入込客数調査報告書 公表予定(現行手法)	★ R7-3Q 公表済 (5/13)			● R7年度 公表			★ R8-1Q 公表			★ R8上期 公表	
【新】 北海道観光入込客数調査事業費 事業実施予定 人流データに基づく調査報告と切替検討支援	←→ 事業者との打合せ ・調査仕様 ・報告内容 ・スケジュール等			● データの突合			→ R9年度予算要求【道】				
		↔ アンケート調査		↔ 市町村向説明会	● R6年度 R7年度 R8年度1Q 報告書納品		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【納品予定】※市町村向では下線を予定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○全道観光入込客数調査 (道内・道外・海外(国別)別での月別入込客数、宿泊客数、宿泊客延数)</li> <li>○市町村別入込客数調査 (道内・道外・海外(国別)別での月別入込客数、宿泊客数、宿泊客延数)</li> <li>○観光地点等における入込客数調査 (道内・道外・海外(国別)別での月別、1,353地点想定)</li> </ul> </div>				
							<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>切替可否検討支援 (各種Q&amp;A対応等)</p> <p>※「相談窓口」を開設し支援 (説明会開催後～R8.12(予定))</p> </div>				

## 課題等

- 地域における旅行者の満足度向上に向けた効果的な観光施策の検討には、旅行者の移動履歴や決済情報などのデータの活用が必要であるが、地域によって取組に差がある。
- 広い北海道において、旅行者への観光・交通情報等の正確な情報提供が必要なため、全道域を対象としたAI化の取り組みを進める必要がある。

## 対応

- 全ての市町村や観光関係団体などが人流・消費データなどを、容易に検索・活用可能なサイトを構築するとともに各地域において勉強会を行い、地域の観光戦略立案を支援する。
- 旅行者の多くがスマートフォンを活用し、AIで情報を取得している現状を踏まえ、観光・交通に係る各種情報の集約や北海道公式観光サイトなどをAI対応するなど再構築し、旅行者の利便性向上を図る。

## 事業内容

区分	内容
<b>【委託】</b> マーケティング サイト 構築	○道内の旅行者の属性、観光消費額などを把握できるマーケティングサイトを構築・公開 （イメージ:おきなわ観光地域カルテ） ・人流データ(来訪者の人数、属性、来訪場所・周遊ルート、宿泊場所等) ・消費データ(決済日時、決済場所、属性等)
<b>【委託】</b> インフラデジタル プラットフォーム 構築	○道内の観光、交通情報などを、AIが理解・利用できるデータ形式で整理・収納されたオープンデータプラットフォームを構築 ○北海道公式観光サイト「HOKKAIDO LOVE！」内の情報をAIが利用できるようにサイトを再構築 ○北海道の観光統計データのサイトにおいて、掲載されている種々の調査結果などを人間にもAIにも分かりやすくするとともに、AI機能を設け利用者が必要なデータを抽出しやすくするよう再構築

## 課題等

- 観光関連産業は、慢性的な人手不足の状況にある一方、観光需要は堅実に回復しつつあり、観光インフラの充実・強化を図るために、人材の確保・育成が急務である。
- 離職率の高さなどから、コロナ禍以降も人手不足が続いており、将来の観光を担う人材育成として、若者が実践的な経験を通じて地域への理解と関心を深められる環境整備や、幅広い世代が観光の価値を身近に感じられる機会の創出が必要がある。
- 道内では人口減少や少子・高齢化が進展しており、道内外に向けた観光関連産業の魅力の発信など、多様な人材の確保・定着に向けた取組を行う必要がある。

## 対応

- 厳しい人手不足に対応するため、道内各地域の観光関連事業者向けの研修会やセミナー等を実施するほか、課題を抱える事業者向けの相談窓口の設置や専門家の派遣など、観光関連事業者の人材の確保と育成を支援する。
- 小・中学校から高校、社会人に至るまでの幅広い年代に対し、一貫した人材確保や育成の取組を進める体制を整え、観光教育の普及・啓発等を図る。
- 観光人材バンクの設置や首都圏等で開催される大規模就職イベントへの出展により、求職者と宿泊事業者等をマッチングし、観光人材の確保を加速化させる。

## 事業内容

- |                    |                            |
|--------------------|----------------------------|
| (1) 北海道観光を担う「観光塾」  | (8) 観光人材バンクの設置             |
| (2) 従業員研修(派遣型・集約型) | (9) 宿泊業のための相談窓口の設置・専門家派遣   |
| (3) 外国語ガイド育成研修     | (10) 宿泊業のためのマッチングイベント      |
| (4) 出前講座           | (11) 大学向け観光産業論講義           |
| (5) 職場見学会          | (12) 道内商業高校向け観光ビジネス授業学習の定着 |
| (6) インターンシップ       | (13) 観光教育教材開発              |
| (7) 学校交流会          | (14) 観光教育の啓発・機運醸成          |

区 分	今年度の主な事業内容	実施回数等(予定)
北海道観光を担う「観光塾」	事業者と行政やDMO等が地域課題解決を共に学ぶセミナーの開催	道内外6回
従業員研修(派遣型)	観光関連事業者の依頼に応じた講師を派遣	道内35回
従業員研修(集約型)	地域課題解決に向けた集約型研修	道内4カ所
外国語ガイド育成研修	eラーニング(英語・中国語・韓国)や模擬バスツアー等の研修、マッチングイベント	模擬バスツアー3回 イベント1回
出前講座	観光教育の普及啓発のため学校へ講師を派遣	80校
職場見学会	学校による宿泊事業者の職場見学会	30校
インターンシップ	高校生等による宿泊施設への就業体験	100名
学校交流会	道内外大学、専門学校と観光事業者との交流会	4回
観光人材バンクの設置	求職者と宿泊事業者等向け人材バンクの構築・運営	各20名
宿泊業のための相談窓口の設置・専門家派遣	課題を抱える観光関連事業者等向け相談窓口の設置、専門家の派遣	30事業者
宿泊業のためのマッチングイベント	首都圏等での求職者向けマッチングイベントへの出展	3回
大学向け観光産業論講義	道内大学への寄付講座として観光産業論の講義実施	3大学
道内商業高校向け観光ビジネス授業学習の定着	道内商業高校向けに観光データを活用した観光ビジネス授業の普及・啓発のための講義の実施	講義6回、報告会1回
観光教育教材開発	小・中学校向け観光教育副読本、教員用手引書の製作	5,000部
観光教育の啓発・機運醸成	モニターツアー及び道民向け啓発セミナーの実施	ツアー・セミナー各4回

## 課題等

- 地域意見交換会では、宿泊事業者から、施設の質や旅行者の安全・安心に係る取組といった宿泊者の満足度向上に資する施設整備等への支援を求める声が多い。
  - ・多言語対応やキャッシュレス整備への支援
  - ・人手不足やIT対応に係る支援
  - ・危機管理に資する施設投資に対する補助
- 観光協会、地域DMO、観光関連事業者等から、地域が促進するアウトドア観光への支援といった地域特性に合わせた持続可能な観光地づくりやオーバーツーリズム対策などの充実を求める声が多い。
  - ・周辺地域と連携したツアー造成(体験型観光)への支援
  - ・地域の観光資源を活かす取組への支援
  - ・看板などの多言語化や翻訳機の設置

## 対応

- 宿泊事業者を対象に自動チェックイン機などの省力化や、安全柵の設置など旅行者の安全・安心に係る施設・設備整備等を支援し、宿泊者の満足度向上を図る。
- 観光協会、地域DMO、観光関連事業者等を対象に観光コンテンツの充実化、その他多言語翻訳システム機器導入といった受入環境整備に係る設備整備等を支援することで、地域特性に合わせた持続可能な観光地づくりやオーバーツーリズム対策などの充実を図る。

## 事業内容

○観光関連事業者等が行う省力化や安心・安全、高付加価値化等に係る設備投資等を支援

区分	内容
補助対象事業者	①宿泊事業者(ホテル、旅館、簡易宿所)、②観光協会、地域DMO、観光関連事業者等
補助上限額	1宿泊事業者又は1整備計画(市町村と観光協会等が共同で地域としての整備計画を策定)当たり200万円
補助率等	1/2以内
補助メニュー	(1)事業者の省力化、(2)旅行者の安全・安心、(3)観光コンテンツの充実化、(4)その他受入環境整備
補助対象経費	需用費、備品購入費、工事請負費、システム使用料

## ○ 観光客の移動利便性向上に向けて、新たな観光バス運行の立ち上げを支援

### ■ 補助内容

- ・ 地域で組織する協議会等が、観光目的のバス路線を新たに行うに当たっての立ち上げ費用の一部を補助する
- ・ 補助金の交付決定に当たっては、将来的に自走化が見込める路線を対象に支援する（最長で3年間）

### 【対象路線】

- ・ 地方空港（新千歳・丘珠を除く）、鉄道ターミナル駅、バスターミナル、宿泊施設集積地、又は観光地を結び、複数市町村を跨ぐ定期路線バス
- ・ 新設（再編含む）、既存路線の増便、期間延長

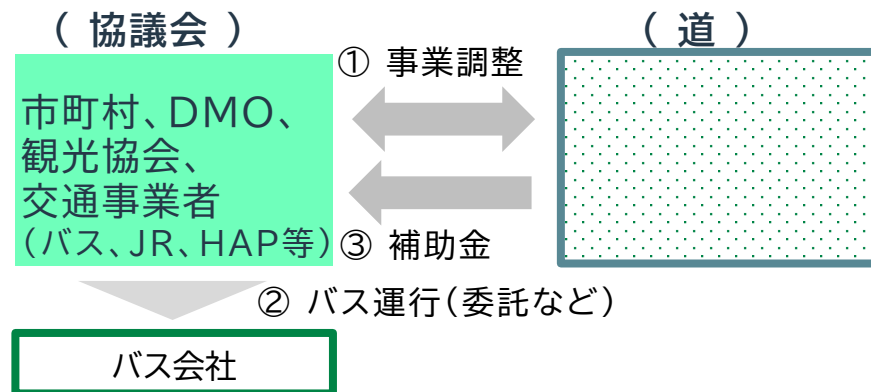
### 【主要要件】

- ・ 高付加価値化やインフラ・サービス拡充の取組、既存路線との連携、自走化に向けた収支見込み
- ・ キャッシュレス・インバウンド対応
- ・ 生活交通路線ではないこと など

○ 収支見込みのイメージ



### < 実施スキーム >



### < 対象経費と補助金額 >

対象経費	補助金額
新たなバス路線運行のための掛かり増し経費	車両の改修費、人件費、予約システム改修等 1日1台当たり最大15万円
周知・広告費用	パンフレット、WEBページ作成、SNS発信、観光誌掲載など 最大500万円

## 【R8 AT関連事業の考え方】

- ・ ATの考え方を活用して、地域観光の高付加価値化＋地域偏在・季節偏在対策に取り組みたいと考えています。
- ・ トレンドが「ソフトアクティビティ」に移ってきており、文化ガイドの育成支援にも着手します。
- ・ 観光コンテンツの面からインバウンドの受け入れ対策を支援できる事業があります。是非ご活用ください。

## 【R8 地域に広くご活用いただきたいAT関連事業】

### ATハンズオン支援事業 (機構負担金事業)

【対象】「アドベンチャートラベル」に関心を持つ全ての方

- ①AT基礎セミナー:今年は**公募枠**も用意する予定です。
- ②**専門家派遣**:様々な課題解決にご活用ください。
- ③調査事業:率直にご回答ください。ご協力をお願いします。

### AT受入に向けた地域文化研修事業 (機構負担金事業) **[NEW]**

【対象】地域に根ざした歴史や文化(食などを含む)の  
コンテンツ開発やガイディングに興味がある方

→ 6圏域でセミナー開催予定です。詳細は別途告知します。

《地域のガイド育成に向けては、こちらもご活用ください》

### 稼げるガイド育成に向けた キャリア構築支援事業(宿泊税事業) **[NEW]**

【対象】アウトドアガイド及びその志望者(特に経験年数が浅い、またはほとんどない方)

- アウトドアガイド向けの経営支援情報や、事業者の経営事例などを学べます。
- アウトドアガイドの仕事の場を広げるためのマッチング相談会も予定しています。

### ATガイド育成に向けた各種研修 (機構負担金事業)

【対象】ガイド歴がある程度以上ある方(研修による)

→ 「世界水準のガイド」に求められる様々なスキルの研修を行います。

## 課題等

- 道内の複数地域において令和6年度北海道観光入込客数調査における観光入込総数(延べ人数)及び宿泊客延べ数がともにコロナ前の水準に戻っていない状況。  
(令和6年度該当地域:宗谷管内、日高管内、釧路管内)
- 本道観光の持続可能な発展に向けては、旅行需要の地域偏在を解消し、平準化を図ることが重要。

## 対応

- 道央圏に集中する外国人観光客の地方への訪問を促進し、地域偏在を解消するため、外国人観光客(日本国外を発着とする訪日客)向けツアーが地方を周遊する際の移動経費の負担を軽減。
- 参加者へアンケート調査を実施し、集計分析を対象地域に共有。地域商品の磨き上げや新たな商品づくりを支援。

## 事業内容

区分	内容
バス借上料の支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>○外国人観光客(日本国外を発着とする訪日客)向けツアーで、該当地域(令和8年度は宗谷管内、日高管内、釧路管内)を周遊する際の借上バス代が対象。</li> <li>○1回あたりの周遊に要するバス使用料が10万円を超えるものについて、1日1台当たり10万円の定額を支給。</li> </ul>

観光入込総数(延べ人数)及び宿泊客延べ数  
(ともにコロナ前の水準に戻っていない振興局抜粋)

	R6年度(千人)		R元年度(千人)		R元年度比	
	入込総数	宿泊客延数	入込総数	宿泊客延数	入込総数	宿泊客延数
日高	1,737	172	1,794	288	▲3.2%	▲40.3%
宗谷	1,966	646	2,086	674	▲5.8%	▲4.2%
釧路	7,191	1,536	8,171	1,776	▲12.0%	▲13.5%
合計	153,210	40,450	143,880	36,200	6.5%	11.7%

令和6年度北海道観光入込客数調査

訪日外国人来道者の宿泊客延べ数(上記振興局抜粋)

	R6(千人)	R元(千人)	R元年度比
	宿泊客延数	宿泊客延数	宿泊客延数
日高	2	2	-
宗谷	26	27	▲3.7%
釧路	170	167	1.8%
合計	8,925	7,536	18.4%

令和6年度北海道観光入込客数調査

圏域別訪日外国人来道者の宿泊客延べ数

